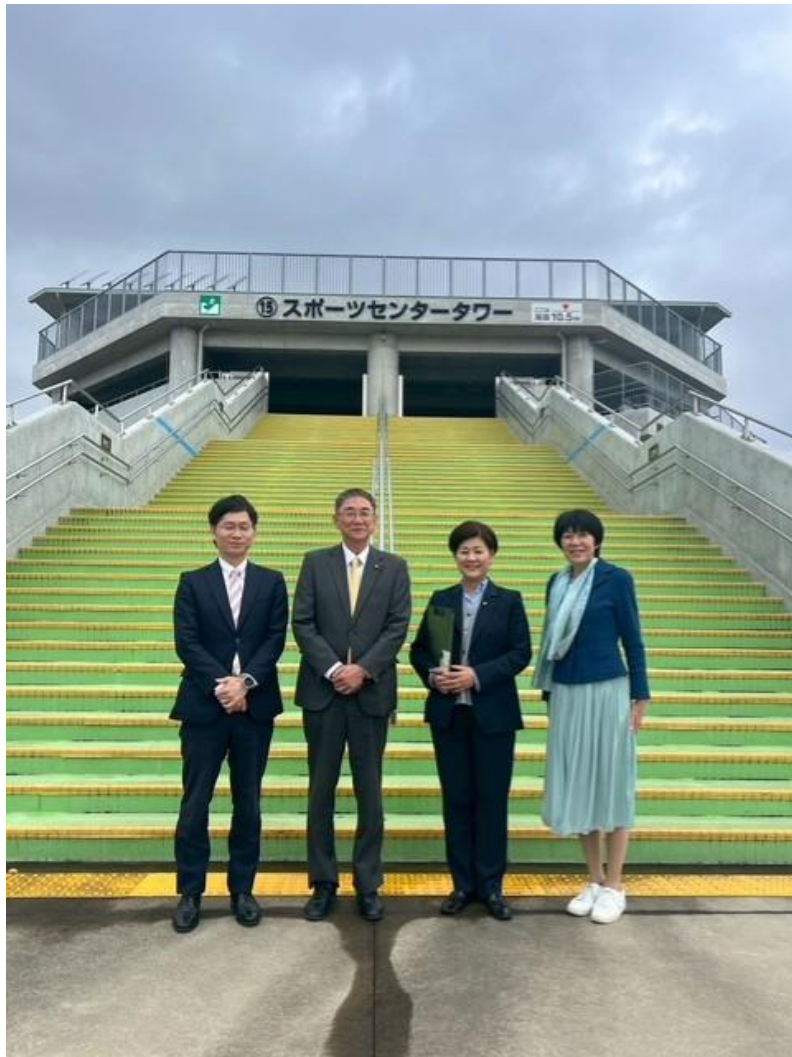


視察報告書

高知県南国市、兵庫県姫路市

令和8年4月20日(月)～4月21日 (火)



南国市津波避難ビル前にて

松阪市議会 市民クラブ

令和8年5月1日

松阪市議会議長 濱口 高志 様

松阪市議会 市民クラブ 吉川篤博

令和8年4月20日(月)から4月21日(火)の間、行政視察を実施しましたので下記のとおり報告いたします。

1. 視察の日程 令和8年4月20日(月) 高知県南国市
4月21日(火) 兵庫県姫路市
2. 参加議員 会派「市民クラブ」 吉川篤博、楠谷さゆり、橘大介、酒井由美
3. 報告書作成 橘大介、楠谷さゆり
4. 報告書提出 会派長 吉川篤博

【 I 】「津波避難タワー及び防災対策について」・・・(高知県南国市)

視察日:令和8年4月20日(月) 13:30~15:00

1. 南国市の概要:南国市は高知県中央部に位置し、高知市の東側に隣接する県内第2の都市で、人口は約4万6千人、面積は約125km²。高知龍馬空港を有し、高知市に隣接する交通拠点都市。南海トラフ巨大地震による津波被害が想定される地域でもあり、防災対策に力を入れている。北は山間部、南は太平洋側の海岸部まで広がり、温暖な気候と平野部を生かした農業が盛んなエリアです。土佐湾側には高知海岸の一部が広がり、ハウス園芸地帯としても知られている。空の玄関として高知龍馬空港が市南部に立地し、高知自動車道の南国インターチェンジが北側にあり、高速道路アクセスが良好。JR土讃線と土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線が接続する後免駅や、路面電車の始発となる後免町電停があり、高知市中心部へのアクセスも便利で、空路・高速道路・鉄道が集まり、観光やビジネスの拠点になっている。

2. 視察先・内容

【視察先】南国市役所・高知県南国市 スポーツセンタータワー

【視察内容】津波避難タワー整備、防災行政無線、避難所環境整備、自主防災組織の取り組み

【対応者】議会事務局 次長兼庶務係長兼議事調査係長 門脇智哉 様

危機管理課 課長 野村学 様

危機管理課 危機管理係 主幹 村上佑紀 様

3. 主な説明内容

- ・市内 15 基の津波避難タワーを整備し、高台避難が困難な地域を補完している。
- ・徒歩 5 分程度で避難可能な配置を基本とし、住民の命を守る体制を構築。
- ・平常時から施設を開放し、住民が日常的に利用できる環境を整備。
- ・避難所にはパーテーション、段ボールベッド、移動式空調設備などを導入。
- ・自主防災組織の育成や若年層への防災教育にも注力している。

4. 視察時の質問

- ① 津波避難タワーの設置場所は、どのような基準で決定したのか。
- ② 維持管理費や老朽化対策は、今後どのように進めていくのか。
- ③ 平常時に自由開放している中で、安全管理や事故防止対策はどうしているのか。
- ④ 避難所環境の改善について、住民ニーズをどのように把握しているのか。
- ⑤ 若年層や女性の自主防災活動参加を広げる工夫は何か。

5. 松阪市へ活かす点

松阪市でも津波被害が想定される地域がある中、避難施設の配置、平常時活用、避難所環境整備など、南国市の先進的な取り組みは大いに参考になると感じた。特に既存施設を「作って終わり」にせず、日常的に使える施設としている点は重要である。

6. 所感

今回、南国市立スポーツセンタータワーを視察し、連日地震が続く中で、改めて「命を守る防災」の重要性を強く感じた。三重県においても、今年 3 月 30 日に南海トラフ巨大地震による新たな被害想定が公表され、県内の死者数は最大 5 万人、そのうち津波による死者が 4 万 1 千人と全体の 8 割を超える結果となっている。松阪市においても津波対策は喫緊の課題であると再認識した。南国市では、2022 年 10 月完成の本施設を含め、津波避難タワーが 15 基整備されており、松阪市の 2 基と比較しても、防災への備えに対する危機意識と行動力の違いを感じた。特に印象的だったのは、津波避難タワーを単なる非常時の施設としてではなく、スケートボード公園などと一体化した複合施設として整備し、日常的に市民が利用している点である。防災施設は訓練時のみ使われるのではなく、普段から地域住民に親しまれ、身近に感じてもらうことが重要である。その意味で、南国市の取り組みは、防災意識の向上と施設活用を両立した先進的な事例であり、大変参考になった。松阪市においても、津波避難施設の整備だけでなく、平常時から活用される仕組みづくりや、市民に身近に感じてもらえる防災施策の推進が必要であると強く感じる視察となった。



南国市役所玄関前にて

【Ⅱ】「姫路城マラソンについて」(兵庫県姫路市)

視察日：令和8年4月21日(火) 13:30～15:30

1. 姫路市の概要：姫路市は兵庫県南西部のほぼ中央に位置し、市域面積は 534 km²、陸海ともに運輸、物流の重要な拠点である。人口約 51 万 7,000 人を擁し、播磨地域の中核都市として揺るぎない地位を占めている。また、平成5年に世界文化遺産に指定された国宝姫路城は、平成 27 年に約5年半に及んだ大天守保存修理工事が完了し、入城者数 153 万人以上(R6)と、多くの国内外からの観光客で賑わっている。

2. 視察先・内容

【視察先】 姫路市役所

対応：観光経済局スポーツ振興室室長 尾関 正弘 様

観光経済局スポーツ振興室課長補佐 加藤 光司 様

観光経済局スポーツ振興室主幹 福田 喜信 様

議会事務局調査課課長 岩澤 昭平 様

【視察の目的】

「姫路城マラソン」は本年度で第5回となる「みえ松阪マラソン」と比較して、予算規模やエントリー数においてほぼ同規模のマラソン大会である。しかしながら、まち全体がマラソン大会と共にお祭りのような賑わいがあり、みえ松阪マラソンに参加する全国からのランナーが大抵はマラソン大会の参加のみで松阪市から離れてしまうのに対し、姫路城マラソンの参加者はまちを楽しみ、地元経済に貢献している。その秘訣を学ぶことで、みえ松阪マラソンの地元への経済効果を上げることにに関する提案ができると考える。

3. 主な説明内容

○姫路城マラソン 2026 の実施報告

2026 年 2 月 22 日(日)第 11 回大会を実施。出走者数は男子 7,019 人、女子 1,717 人、合計 8,736 人であり、過去最多となった。完走者数は 8,187 人、完走率 93.7%は前年 94.8%より少し低下したが、これは気温上昇の影響により途中棄権者が増加したものと考えられる。

次に、前日および当日に大手前公園で開催したマラソン祭りの来場者数は、前日約 23,000 人、当日約 33,000 人、合計約 56,000 人であった。両日とも好天に恵まれ、盛況となった。マラソン祭りに来場者が多い要因の一つは、前日受付としているためと考えられる。大会運営には、陸上競技協会役員、市職員、医療関係者、警備員等を含め約 1,800 人が従事。加えて、約 3,600 人のボランティアが参加し、大会を支えた。商店街との連携として、買い物・飲食時の割引やサービス提供などの「おもてなし事業」を実施した。各店舗の自主的な取り組みや私設エイドの充実が大会の賑わい創出に寄与したと評価している。

4. 質疑応答

(Q1)ボランティア確保やその育成についてはどのようにしているのか。松阪市では学校教育活動の一環として児童生徒も参加している。

(A)地元自治会やスポーツ推進協議会などに協力をお願いしている。姫路市は自治会活動が盛んで、自治会で 100 人くらいの動員をかけているところもあり、また小中学校にも自治会から声をかけてもらっている。しかしながら高齢化に伴い人員確保が課題となっており、大学・高校等への働きかけを強化する必要があると認識している。育成方法については、毎年同じ場所でボランティアをしてもらうことで、体験を蓄積できるように考えている。

(Q2)財政面の持続性については。

(A)大会総事業費は約 3 億 3,800 万円(2025 大会)で、その中で市の負担金は 1 億 3,500 万円であり割合が高い状況にある。参加料の見直し(10,000 円→13,000 円)を実施したが、今後も協賛金確保や運営効率化を含めた検討が必要である。

(Q3)運営の総指揮にコンサル会社を使っているのか。

(A)大会の安全・安心を高めるため、電通西日本のアドバイスを受けている。

(Q4)町全体を盛り上げる仕組みは。

(A)実行委員会としての取り組みは、姫路市商店街連合会と協定書を締結し、商店

街おもてなし事業を実施(負担金 20 万円)しているが、それ以外は 10%オフサービスを含めて商店街の自発的な取り組みである。

(Q5)会場のブースが飲食だけでなくその他の種類も多いが、どのような工夫をしているのか。ブースの募集方法や出店料は。

(A)前日・当日開催の「姫路城マラソン祭」では、大きく「観光ゾーン」「スポンサーゾーン」「うまいもんゾーン」に分かれており、それぞれのブース出展者が趣向を凝らしたブース運営を行なっている。観光ゾーンは地元のスポーツチームなどが、スポンサーゾーンは協賛企業、うまいもんゾーンは地元播磨地域の団体が出展している。うまいもんゾーンのブース募集は、姫路城文化協会に取りまとめを依頼しており、出店料は1ブース 2 万円である。

(Q6)交通規制で市民生活に不便が生じる、商売に影響が出る等の苦情はあるのか。

(A)迂回路等の案内は H P や全戸配布チラシで周知しているが、毎年一定数の苦情や意見はある。営業補償等を行っていない。

(Q7)雨天対策は。

(A)ランナーの更衣室及び手荷物預かり場所は、女性、男性共に建物内や地下駐車場を使用しており、特に対策はしていない。過去に一度も雨が降ったことがないので会場内についての対策は考えていない。

(Q8)2025 年の大会アンバサダーが「リラックマ」とは意外である。どんな効果があったのか。

(A)事務局職員のアイディアで採用した。マラソンに興味のない人もリラックマ目当てにたくさん会場に来ていたようである。

(Q9)大会までの期間に歩道の草刈りはやっているのか。

(A)特にやっていない。各自治会でやっているところはある。

5.所感: 姫路城マラソンは、世界遺産姫路城があること、スタート・フィニッシュ会場が同じ場所であること、会場が駅から徒歩圏内であること、マラソン受付を前日として二日間の賑わいを創出していること等、みえ松阪マラソンとは根本的に大きな隔たりがある。しかしながら姫路城の存在以外の項目は実行委員会が設定した要素であり、課題は克服していく覚悟であると理解している。みえ松阪マラソン大会に対する苦情や反対意見の多くが、市の財政の中でマラソンになぜ多くの資金を投入するのかということであれば、大会の継続には効果を一層目に見える形で示していくことが大切で

あろう。

姫路城マラソンの経済波及効果は約 11 億 7,000 万円(2025 年大会)で、みえ松阪マラソンの方が高い。一方で、松阪では地元経済への効果が限定的であると感じられるため批判が絶えないのではないか。松阪市では文化施設と商店街との動線企画も成功しているとは言い難いが、マラソン大会と商店街との連携も協定や助成金などの工夫でさらに強化することが大切との認識を改めて得た視察であった。まちが賑わいを見せれば私設エイドなどが増えることで、一層賑わいの創出に華を添えることができるであろう。



姫路市議会 議場にて



姫路市役所会議室にて